

花のお江戸を歩く会 (217回)

奥千住宿～浅草散歩

「隅田川七橋＝江戸歴史ゾーン＝を歩く」

＜散歩道のご案内＞

徳川家康が江戸に入府後直ちに着手したのが五街道の整備でした。中でも未知の軍事勢力が集中する東北方面への防備は、家康にとって最重要課題で、家康は千住宿の整備にいち早く取り組みました。

今回は、そうした、徳川政権樹立前に千住宿の代替的機能を担っていた「奥千住宿＝隅田宿」をめぐる中世期の歴史ドラマを辿ることにしました。源頼朝が鎌倉政権を目指して千葉から武蔵国に攻めあがる際の「隅田川の渡河」はこのあたりでした。また、謡曲の世界で今も語り継がれる「梅若伝説」この地、奥千住宿でした。

今回は、観光面からも、ニュース性からも忘れ去られた、あなたの知らない歴史ゾーンを「隅田川七橋」を辿りながら浅草まで歩きます。花のお江戸だけが企画できるユニークな散歩道にご期待ください。

＜散歩道の順路＞

JR 南千住駅→ドナウ通り→ララテラス（新開発商業区域）→胡録神社→隅田川リバーサイド遊歩道→千住汐入大橋→汐入公園（白鬚西防災拠点）→隅田川防潮堤→水神大橋→榎本武揚像→梅若塚木母寺（梅若伝説の地）→白鬚西防災公園→隅田宿跡→隅田川神社（水神の森・鐘ヶ淵伝説の地）→源頼朝「隅田川渡河の跡」→白鬚橋→対鷗荘跡（三条実美別荘跡）→橋場の渡し跡→石浜神社→橋場不動尊→隅田川浮世絵リバーサイド散策→桜橋→長命寺の桜餅→長命寺→弘福寺→美家古→検番通り→向島墨堤組合（検番）→三囲神社→佐多稲子旧居跡→言問橋→隅田川リバーサイド→吾妻橋→浅草花川戸交番前広場（解散）→浅草駅へ

＜個別ガイド＞

① 南千住新都市開発区域

江戸時代には日光街道の宿場町だった南千住。明治時代には官営のレンガ工場を始め、工場が立ち並ぶ工業地帯でもありました。今も駅の東口に広がる、JR 貨物の広大な隅田川駅も明治 30 年に当初、石炭の集積所として設立されました。その後、明治 34 年から一般貨物を扱うようになり、今に続きます。貨物駅から隅田川にかけての広大な工場跡地、それに隣接した住宅密集地、旧国鉄用地などを合わせた 48.8ha の再開発が南千住を大きく変えました。

② 胡録神社

永禄 4 年（1561 年）8 月、川中島の合戦の折、上杉家の家臣高田嘉左衛門が敗走して当地

まで逃げ延び、当地の汐入に高田、竹内、杉本など数名と永住の地と定めて土着。その守護神として、9月19日に二神を一祠に奉斎したのが創祀。蛎（牡蠣）殻を石臼にかけ胡粉という人形の上塗りの塗料の生業が盛んだったため、現在も境内には奉納された古い石臼がある。昭和27年（1952年）に奉納された襖絵には、山と積まれた蛎殻が描かれ、往時の面影をしのぶことができる。『江戸名所図会』にも記載されている。→隅田川リバーサイド遊歩道→千住汐入大橋→汐入公園（白鬚西地区防災拠点）→隅田川防潮堤→水神大橋（白鬚東地区防災拠点）

③ 榎本武揚像

榎本武揚は幕末から明治にかけて活躍し、晩年は向島で過ごしました。本銅像は大正2年5月、旧幕臣のち代議士江原素六などの発起により、府会議員本山義成らが中心となって建立されたもので、彫刻家藤田文蔵の秀作です。

④ 梅若塚木母寺（梅若伝説の地）

この寺は寺伝によれば、976年（貞元元年）忠円という僧が、京都から人買いによって連れてこられてこの地で没した梅若丸を吊って塚（梅若塚：現在の墨田区堤通2・6）をつくり、その傍らに建てられた墨田院梅若寺に始まると伝えられる。1590年（天正18年）に、徳川家康より梅若丸と塚の脇に植えられた柳にちなんだ「梅柳山」の山号が与えられ、江戸時代に入った1607年（慶長12年）、近衛信尹によって、梅の字の偏と旁を分けた現在の寺号に改められたと伝えられており、江戸幕府からは朱印状が与えられた。明治に入ると、神仏分離に伴う廃仏毀釈によりいったん廃寺となったが、1888年（明治21年）に再興された。その後白鬚防災団地が建設されるにあたり、現在の場所に移転した。

⑤ 隅田宿跡

奈良時代、律令国家が成立し隅田川が下総国と武蔵国の国境に定められました。奈良の東大寺正倉院に伝わる戸籍によると、養老五年（721年）頃の向島地域は、葛飾郡大嶋郷という村落の一部であったとされています。平安時代初め頃、幹線道路が大嶋郷を通過し、隅田川には渡船場が整備されました。（管理人の推定では、下総国分寺→隅田宿→今の明治通りを通過して→王子→川→板橋→天沼→武蔵国分寺＝奈良官道が国道であったのでは）

在原業平の都鳥の故事は、この渡を舞台にした物語だとされています。平安時代末期、隅田川の周辺には隅田宿と呼ばれる集落ができ、交易の場として発展しました。源頼朝が隅田宿に大軍を駐留させた記録も残っています。都人や各地の商人が宿を訪れ、そんな旅人たちの伝説（梅若伝説）も生まれましたのもこの地域でした。

⑥ 隅田川神社（水神の森）

「水神社」と呼ばれかつては樹木が繁茂し、水神の森とも称された微高地でした。また隅田川の増水にあっても沈むことがなく「浮島」の名もありました。昔から、河川交通の要衝（往古の街道筋・近世の渡場）であり、海運・運送業者の尊崇を集めていました。現在は、首都高速道路と防災拠点建設事業のために、昔の面影はなく、社地も旧地の南100mの地に移転しています。

祭神は速秋津比古のほか三神を主神としています。また社伝によると、源頼朝挙兵の折の、治承4年(1180)この地に到り、水神の靈験に感じて社殿を造営したともいいます。現在の社殿は幕末(1858・1864)の二度の建設によるものです。→白鬚橋→対鷗荘跡(三条実美別荘跡)→橋場の渡し跡

⑦ 石浜神社

聖武天皇の神亀元年(724)9月11日、勅願によって鎮座され、以来1292年の歴史を持っています。文治5年(1189)、源頼朝の奥州征討に際しての社殿の寄進、弘安4年(1281)、蒙古襲来の折、必勝を祈念しての、鎌倉将軍家お取り次ぎによる官幣(かんぺい:天皇から神に捧げる礼物)のご奉納などを経て、中世初めには大社としての発展を見ました。

殊に、千葉氏、宇都宮氏などの関東武将の信仰は篤く、関八州より、多くの参詣者を集めたと、伝えられています。東に隅田の大川、西に霊峰富士、北に名山筑波といった名勝に恵まれ、江戸近世における社運はさらに隆昌、『江戸名所図会』(※)などにも大きく納められるところとなり、「神明さん」の通称のもと、市民の間にその名を馳せました。

⑧ 橋場不動尊

橋場不動尊は、天平宝字4(760)年、奈良東大寺建立に尽力のあった僧によって開創されました。当初は法相(ほっそう)宗でしたが、長寛元(1163)年に時の住職教円(一説には長円)によって天台宗に宗派を改め、鎌倉以降は浅草寺の末寺となりましたが、現在は比叡山延暦寺の末寺となっています。江戸時代には、周辺の三条公、有馬侯、池田備前侯などをはじめとする武家の尊信をも集め、明治末年の大化、関東大震災、そして昭和20年3月の東京大空襲の際にも、不動院を中心とした橋場の一角だけは災禍をまぬがれたことから、靈験あらたかな橋場不動尊として現在でも広く庶民に尊信されています。現在の本堂は、弘化2(1845)年建立のもので、小堂ながら江戸時代の建築様式を保ち、美しく簡素なたたずまいをしめしています→隅田川浮世絵リバーサイド→桜橋

⑨ 長命寺の桜餅

創業1717年(享保2年)の「長命寺 桜もち 山本や」。初代の山本新六さんは墨堤近くの長命寺の門番で、周辺の桜葉の利用法として考え付いたのが塩漬けの桜葉で作る「長命寺桜もち」だったと言われます。今でも花見の時期には長い行列ができますが、滝沢馬琴ら編の江戸時代の随筆集、『兎園小説』によると、同店で1824年の1年間で消費された桜葉は31樽、桜もちにして約38万5000個分というので、江戸時代にもかなりの人気があったようです。

⑩ 長命寺(3代将軍徳川家光ゆかり)

この寺の創建年代等については不詳であるが、平安時代円仁の開山により創建されたとも、慶長年間(1596年・1615年)に創建されたともいう。もとは宝樹山常泉寺と号していたが、江戸幕府3代将軍徳川家光の命により現名に改められたという。それは、家光の放鷹の途中で、軽い病气(微恙)になってここで休憩したので、僧孝海が加持のうえ境内の般若水で薬をすすめると、効験あって治癒した。家光は喜んでその井戸水を長命水と名

付けて家康の画像を付して毎年供養料を給したそうです。

⑪ 弘福寺

この寺は、黄檗（おうばく）宗大本山、宇治の黄檗山万福寺の末寺で、延宝二年（1673）に創建されました。同じ禅宗の中でも最も中国に近い宗派として名高く、その建築も重層の屋根、大棟の宝珠など中国風の特色多い寺院です。境内右手の小祠には咳の爺婆尊（じの石像を祀ってあります。この像は寛永年間（1624～44）に、風外和尚が真鶴山中で修業中に、父母に孝養を尽せぬことをいたんで刻んだものと伝えられます。後に、ここ弘福寺に移されました。風外の両親の像だから風邪にも強かろうと、爺像は喉頭の病に、婆像は咳止めにご利益あるとして、今でも風邪除けの信仰を集めています。若き日の勝海舟はこの寺で剣道の練習に励んでいたそうです。→**割烹美家古（登録有形文化財）→検番通り→**

向島墨堤組合（検番）

⑫ 三囲神社

三囲神社の創建年代は不詳ですが、文和年間（1353-1355）近江三井寺の僧源慶が東国遍歴の際に社を改築したといえます。改築しようとした際、土中より白狐にまたがる老翁の像を得、白狐が現れて神像を三回回ったことから三囲神社と改称したといえます。三井家（三越などの創業家）が江戸に進出して以来、三井家の守護神として崇敬を集め、三井家先祖をまつる顕名霊社や三井邸から移設した三角石鳥居が境内に安置してあります。→**佐**

多稲子旧居跡→宮間橋

⑬ 牛島神社

治承四年（1180）、再挙した源頼朝が下総国から武蔵国に渡ろうとした時、豪雨による洪水の為に隅田川を渡ることができなかった。

そこで頼朝に加勢した千葉常胤が、当社に祈願したところ、神明の加護によって全軍無事に渡る事ができたため、頼朝は養和元年（1181）に社殿を造営し、常胤に命じて多くの神領を寄進させたと伝わる。

なお、千葉常胤という武将は、頼朝に加勢し千葉氏を地方豪族から大御家人の地位まで押し上げた千葉氏中興の祖と云われる人物。そのため、当社はその後も千葉氏より篤く崇敬され、宝物として月輪の紋をつけた千葉家の旗が伝わっている。→治承四年（1180）、再挙した源頼朝が下総国から武蔵国に渡ろうとした時、豪雨による洪水の為に隅田川を渡ることができなかった。

そこで頼朝に加勢した千葉常胤が、当社に祈願したところ、神明の加護によって全軍無事に渡る事ができたため、頼朝は養和元年（1181）に社殿を造営し、常胤に命じて多くの神領を寄進させたと伝わる。→**隅田公園→隅田川リバーサイド→吾妻橋→浅草花川戸交番前**

広場（解散）→浅草駅へ